

令和元年度第2回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果

日時：令和2年2月26日（水）16：00～17：20

場所：茨城県庁11階1103会議室

【委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
公認会計士	清水 至 氏
群馬県立小児医療センター院長	外松 学 氏
茨城県精神科病院協会会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	原 晃 氏
茨城県医師会長	諸岡 信裕 氏（委員長）
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏
日製日立総合病院長	渡辺 泰徳 氏

【議事内容・意見等】

○議事内容

- ・茨城県病院事業中期計画（平成30～令和5年度）の進捗状況について
- ・令和2年度の各病院の主な取組について
- ・県立病院の老朽化・狭隘化への対応について

○主な意見

- ・中期計画は着実に実行されているが、診療機能や教育・研修機能の充実などの重点を置く取組について、採算がとれるものなのか、採算はとれなくても地域医療を支えていくために必要なものかという識別ができれば、経営への影響が分かりやすくなる。
- ・医師の判断を待たずに一定の診療補助を行う「特定行為」ができる看護師を更に養成し、タスクシェアリングを目指してはどうか。
- ・県立病院の建て替えについては、県立病院が単独で考えるというより、水戸医療圏全体として医療提供体制をどのように考えるのかという視点が必要。
- ・水戸市内の公的病院が同じような機能を持って分散しているので、医師を供給する筑波大学側としては、機能を集約化して限りある医療資源を効率よく使いたい。
- ・こども病院は、大子町やひたちなか市、日立市からの患者受入れも多い。今後も県北の医療を守るという意味で、建て替えに当たっても県北の医療を守ることを視野に入れてほしい。